

## ミャンマー国内の現状と奨学金の今

## ミャンマーのコロナ状況

こんにちは！奨学金事業担当の武富です。さとおやの皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。ミャンマーでの新型コロナウイルス感染拡大について、本年に入り1,000人を下回っていました。そろそろ安心して良いのかと思っていた矢先のクーデター…。銀行員や公務員など、国軍による軍事政権に反対しボイコット運動を始めましたが、医療機関で働く人々も例に漏れずその運動に参加しています。医療機関が機能していないことに加え、デモ参加のために検査へ行かない人も増えているため、検査率も20分の1と非常に低く、一日あたりの感染者数も正確な数値が出ていません。反対運動として集会なども行われているため密な環境になっており、見えざる所でコロナ感染者が再拡大しているのではないかと、心配も尽きない状況です。学校が始まるのはいつになるか、そもそも再開できるのか…現時点では見通しは立っておりません。



## 国軍によるクーデター！

## ミャンマー現地の人々は今…

2021年2月1日未明、ミャンマー国軍が去年11月の総選挙結果に不満を抱いたことから、アウン・サン・スー・チー国家

子ども、ボシセクターに残留しているマスク着用で感染対策！

顧問や大統領、NLD（国民民主連盟）の与党幹部らが拘束され、クーデターを起こし、日本のニュースでも大々的に取り上げられました。ミャンマー最大都市のヤンゴンでは、自宅のベランダから鍋を叩いたり、車のクラクションを鳴らす等の騒音による抗議活動を行っており、2月22日に大規模なデモが行われました。今もなお、Facebook上トップ画像をNLD支持仕様に変更する、「#Save Myanmar」のハッシュタグをつけて情報を拡散する等のSNS抗議活動だけでなく、世界各地でNLD支持者によるデモ活動や集会が活発化しています。ミャンマー現地のネット通信も現在はAM1時～9時の間は遮断されており、その間に反国軍派運動をしている人が連行されているのではないかと噂が出ています。幸い、当会の支援先であるチン州現地スタッフ、シャン州の駐在員・鈴木や子どもたち、現地スタッフは皆無事を確認できており、現地との連絡も取れる状況ですが、今後も逐一状況を注視していきたいと思っています。今後、子どもたちの教育を受ける権利は守られるのか？学校はどうなるのか？子どもたちの生活は？子どもたちの将来はどうなるのか？等…様々な不安が尽きません。



駐在員・鈴木は、現地の状況を細かく伝えてくれる心強い仲間です。

## さとおやの皆さんからのご寄付金

## 今、どうなっているの？

本来であれば、ミャンマーの学校は6月に始まり翌年3月に1学年を終えますが、2020年度は8月中旬頃に一週間ほど学校再開していた時期を除き、新型コロナウイルス感染拡大防止のためずっと休校となっていました。2021年1月に再開し、春休み（3～5月）を返上して今年度の学習を行うという話も出ていたことから、1月に支給するための準備を進めていました。しかし状況は変わらず。さとおやの皆様からいただいているご寄付金は現在、当会事務局にて大切にお預かりさせていただいております。対応について、度々事務局と駐在員で協議を重ねていますが、「子どもたちの教育のためにいただいているのだから、いただいたご寄付は、学校が始まってから支給しよう」という方向性になっています。特にシャン奨学金をご支援いただいているさとおやの皆様へは、まださごとご決定の旨をお伝えできておらず大変心苦しい限りですが、皆様の思いを子どもたちにお伝えできるよう、当会として精一杯の対応をさせていただく所存です。どうぞ今後も引き続きご支援いただけますと幸いです。



子どもたちが元気に学べる日が来ることを願って…